

速日尊を天降されし初に高木神の授け給ひし神寶の中に蜂比禮といふものあり、中並に義

不詳ハチとは羽蟲の螫す者なり云ひしと見えたり、チといふ義は前の註にも見えし如く、ツツと

大己貴神に與へられしといふ事もあるを以つても上古の俗、その毒を畏れし事、ツツと見えし

ムといふ如き、これに神とするの謂なり、ユスルといふ事、思ひは、其房の戒愼をいひて、ツツ

如くなるを、やいぬらん、さらば呼ぶしなり、サソリとは細腰の義、見えたり、サソリといひ、知るべ

といふは、轉語なる也、りといひしは詞助なるべし、蝶贏は日本紀にスガルと讀みたり、其義同

かるべし、古語に細き事をいひて、サとも、サ、とも、スガルとも云ひけり、本朝式に須賀流、横刀と

いふなり、則今の細太刀といふものなり、搗糞抄に、サソリにサ、サ、サ、多きによりて、此國には、カソリと

と見えたり、其サ、サ、サといふも、サソリといひしなるべし、轉

也、その語竟に轉じて、カソリともいひしなるべし、轉

〔和漢三才圖會五十二蜂〕音 蜂 音 蜂 和名波知 略 中

按蜂人不觸則不螫、如行於巢下、則追來螫、則不致動。

〔大和本草十四蜂〕種類多シ、ツネノ蜂ノ外、土蜂アリ、蜜蜂アリ、大黃蜂アリ、クマハチト云、又ヤマ

ハチト云、人ヲサス大ナリ、又ジ。ガ。バ。チ。アリ、

〔倭名類聚抄十九土蜂〕爾雅集注云、土蜂和名由須。大蜂之在地中作房者也。

〔箋注倭名類聚抄八名〕今俗呼阿奈婆知、或都知婆知、谷川氏曰、其所居之穴、形如泔器之狀、泔器訓

由須流豆岐、故名之、按陳藏器本草云、穴居者名土蜂、最大螫人至死、又云土蜂赤黑色、蘇敬曰、土蜂

土中爲窠、大如鳥蜂、不傷人、郝懿行曰、土蜂今呼懸蜂、大者斃牛、其房層疊大於十斗甕器、

〔類聚名義抄十土蜂〕スル。ハチ。土蜂。ユスル。バナ。和名。ツチ。バチ。ツチ。スガ。リ。南部。アナ。バチ。略。中

〔重修本草綱目啓蒙二十七土蜂〕ユスル。バナ。和名。ツチ。バチ。ツチ。スガ。リ。南部。アナ。バチ。略。中

土中ニ巢ヲ作ルハチヲ云、數品アリ、地上ニ小穴ヲ穿テ出入ス、土中ニ深ク入りテ、大ナル巢ヲ作ル、其蜂形大黃蜂ノ如シ、人、土ヲ堀テ其巢ヲ破リ、蜜ヲ採ル、是土蜜ナリ、熊野ノ方言ニツト云、略下

蜂種類

土蜂